

## 第10回フィード・ワン勉強会、和牛最優秀賞はダイコク

フィード・ワン(株)は21日、横浜食肉市場で第10回フィード・ワン牛枝肉勉強会を開催し、第1部(交雑種)には59頭(雌29頭、去勢30頭)、第2部(黒毛和牛)には86頭(雌32頭、去勢54頭)の合計145頭が出場した。審査の結果、交雑種の最優秀賞には北海道の太田充英さんが出品した雌牛(父「北美津久」、格付A5、BMS No.12、枝肉重量681kg、ロース芯面積98cm<sup>2</sup>、歩留まり基準値75・6)が「ロース芯の大きさ、周囲筋の脂肪交雑は交雑牛の中ではダントツで、歩留まり基準値が高く、切開面は和牛と見間違えるほどの素晴らしい枝肉」との評価を受けて選ばれ、(株)ミートコンパニオンがキロ当たり2300円で購買。黒毛和牛の最優秀賞(上写真)には、北海道の(有)ダイコクが出品した雌牛(父「北美津久」、母の父「福之姫」、BMS No.12、569kg、96cm<sup>2</sup>、78・5)が「枝肉全体の厚みが素晴らしい、迫力があり、各筋肉のバランスが良く、均整がとれ、全ての筋肉サシが入っており、無駄のないつくり」との評価を受けて選ばれ、(株)中村畜産が3173円で購買した。

競りに先立ち行われた審査講評および表彰式では、主催者を代表してフィード・ワンの田代義尚取締役常務執行役員(下写真)が「出品牛は見事な仕上がりであり、皆さんと検証できることを大変うれしく思う。和牛子牛は過去5年間で最大の上昇率となり高値が続いている。一方で和牛枝肉については、A5去勢で2016~18年は2800円で推移していたが、昨今は2500円となっており、肥育農家は厳しい経営を強いられている。新内閣の物価対策を期待したい。このような環境の中で、当社は統合10周年を迎えることができた。この10年で畜産物の安定供給、また、飼



料の安定、品質向上、情報発信などさまざまな分野で皆さんと共に一緒に歩んできた。今後も持続的な畜産に貢献していきたい」とあいさつ。横浜食肉市場(株)の山口義行代表らが祝辞を述べた。

その他、優秀賞入賞牛の出品者(牛成績、購買者)は次の通り。

[第1部(交雑種)] ダイコク(雌、格付A5、BMS No.9、枝肉重量596kg、単価2015円、購買者=L横浜センター)、岩田(雌、B4、No.7、618kg、1881円、SCミート)

[第2部(黒毛和牛)] (有)新和農産(去勢、A5、No.12、534kg、3017円、富作商店)、ノベルズ最上(雌、A5、No.12、572kg、2902円、購買者=日本精肉店)

